

教育課程改革に関する意識調査

— 小学校における教科「外国語」をめぐって —

National Curriculum Reforms to Foreign Language Education in
Elementary School: A Survey of Pre-service Teachers' Awareness

田代 裕一・中尾かおり*

Yuichi TASHIRO and Kaori NAKAO

要 旨

平成29年、新学習指導要領が告示され、小学校5・6年において教科「外国語(英語)」が新設されることになった。このような状況を踏まえて、今回、本学児童教育学科の学生に教科「外国語」についての意識調査を行った。その結果、現在、教科「外国語」の内容や方法が小学校教師を目指す学生にあまり認識されていないことや、英語に対する学生の苦手意識や英語指導に対する様々な不安について把握することができた。その一方で英語力向上に努力している学生からは多様な場や機会を生かしているという回答も得られ、今後の英語の指導力向上のための方策について示唆を得ることができた。

1. 本調査の目的

平成29年3月に新しい学習指導要領が告示され、小学校では5・6年生に教科「外国語」が新設されることになった。この「外国語」は従来の「外国語活動」とは内容・方法の両面において大きく異なるものである。また、この教科「外国語」に対応した教員養成のための教職科目が設定されるのは本学児童教育学科では、2019年度の入学生からである。つまり現在の児童

* 西南学院大学非常勤講師

教育学科の在學生は、本学において直接、本科目に相当する授業を受けずに卒業することになる。現在、児童教育学科には「児童英語活動論」という科目があり、そこではこの教科「外国語」についても含めて指導しているが、選択科目でもあり、現在、かならずしも履修者は多いとはいえない状況である。

このような社会情勢や学内状況を踏まえて、今回、児童教育学科の學生に教科「外国語」についての意識調査を行い、教職履修學生の教科「外国語」に対する意識や準備を把握し、今後の対応のあり方について考えていきたいと思った。

(本研究では、田代がアンケートの作成、配布および回収、まとめを担当し、中尾が結果の考察を行った。具体的な執筆分担としては中尾が3. 調査結果の検討を担当し、田代がそれ以外を担当した。)

なお、新学習指導要領では小学校の外国語の目標について次のように記されている。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(下線は田代による。)

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_4_2.pdf (文部科学省ホームページ 検索日 2017年12月19日)

このように、コミュニケーション力(読むこと書くことを含めて)の育成が主たる目標であることがわかる。

2. 調査の対象と方法

調査対象は「教育の内容と方法」の履修生（2年生が中心）である。大学2年生は、外国語活動が小学校に開設された頃に小学校の高学年であり、外国語活動の体験がある。アンケートの実施日は2017年12月1日、回答人数は77名（当日の受講生全員）であった（2年生73名 3年生3名 4年以上1名）。アンケートの実際は文末に掲載しているので参照されたい。1から5までの5件法（1 全くそう思わない ←→ 5 全くそう思う）と、自由記述を組み合わせて構成した。

3. 調査結果の検討

まず、基本的な集計結果を以下に示しておく。

単位：人（カッコ内は％）

尺度 \ 質問	問1 認識	問3 指導力	問5 重要性	問7 力量形成
1	29 (37.7%)	12 (15.6%)	5 (6.5%)	9 (11.7%)
2	35 (45.5%)	27 (35.1%)	5 (6.5%)	21 (27.3%)
3	9 (11.7%)	22 (28.6%)	13 (16.9%)	28 (36.4%)
4	3 (3.9%)	13 (16.9%)	31 (40.3%)	14 (18.1%)
5	1 (1.3%)	2 (2.6%)	23 (30.0%)	4 (5.2%)
無回答	0 (0.0%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)
平均値	1.38	2.52	3.81	2.74

1) 教科「外国語」についての知識・理解について

【問1】（2020年度から小学校において、教科「外国語」が実施されますが、その内容や指導方法についてあなたはよく知っていますか）で1や2を選択した回答（低得点群、以下L群と表記）は計83.2%と多かった。この数字からも、あまり小学校の外国語の内容や方法が在學生に知られていないことがわかる。このL群が【問2】（小学校の教科「英語」について、知っていることがあったら述べてください）で記述していた内容についてみる。その際に、ほぼ同じ主旨の記述をまとめて整理する、といった、KJ法的な手法を取ることにする。

まず、最も多かったのは、単純に【よく知らない】といった記述で、10件あった。以下、その例を若干記載しておく（特徴のあるものや示唆に富む記述などを基本的に3例程度、記載する。なお、ある程度、件数の多さ等に比例して取り上げる。以下も同様）。科目として新設されたこと自体は知っているようであるが、あまり深く知らないという記述が多かった。また②のように知りたいという記述もあり、学習意欲を感じさせるものもあった。

- ① 存在していること以外は知らない。
- ② あまり、何も知らないので知りたいです。
- ③ ほとんど知識がありません。

次に多かったのが、【ALT、担任以外が教える】といった記述で8件あった。これは、自分たちが小学生の時に学んだ「外国語活動」の体験に基づいていると思われる。④や⑤は、授業をALTや担任とは別の教師が授業を行うと述べている。⑥は教師間の連携の課題について触れているが、これは重要な問題指摘でもある。

- ④ ALTの先生によるコミュニケーション英語。
- ⑤ 担任とは別の英語の先生と一緒に授業を行う。
- ⑥ 外国人の English Teacher と担任の先生の連携があまりとれていないこと。

【授業関係】についての記述は4件あった。⑦は最近の教育動向、⑧は「外国語活動」での体験をもとに述べているように思われる。

- ⑦ 電子黒板をつかう。
- ⑧ 体を動かしながら学ぶ。
- ⑨ ローマ字、アルファベットの学習。数の数え方。

一方、問1で4や5を選択した高得点群（以下、H群と表記する）は5.2%と大変少なかった。このH群の【問2】での回答をみると、【ALT、担任以外が教える】に関して1件記述あった。

- ⑩ ALTの先生が来て英会話をする。

また【授業関係】に関しても1件、⑪のような記述があった。

- ⑪ 文法的な事項ではなく、単語（色、国、形などのテーマに沿った）の学習などで英語になれ親しむことができるような授業。

2) 教科「外国語」を指導することについて

【問3】（あなたが、もし小学校の高学年担任の教師となったら、教科「外国語」を十分、教えることができると思いますか）で1や2を選択したL群は計50.7%で、比較的多かった。このL群が、【問4】（そう思う理由を述べてください）で記述していた内容についてみていく。

最も多かったのは、【苦手・学力不足】といった記述で、18件あった。①は子どもと比べて自分の会話力が弱いと述べている。②も発音の自信がないと答えている。

- ① 英語が苦手 子どもの方が英会話等でできそうだから。
- ② 自分自身英語の発音もよくないし、教える自信がないから。
- ③ 知識がたりない。

次に多かったのが、【授業関係】の記述で17件あった。その内訳として、授業全般3件、授業の内容6件、授業の方法8件の三つに分けることができた。

授業全般については以下のように、何をするか自体わからないという記述があった。

④ 何をしたらいいのか基礎からわからないから。

授業の内容については以下のような記述がみられた。⑥で述べられている、中学生との違いを知ることはカリキュラムの接続の点でも重要である。

⑤ どのような内容を教えるべきかわからないから。

⑥ まず、小学生でどれくらいの英語を教えればいいのか中学生との程度の違いが分からない。

授業の方法については以下のような記述がみられた。⑦のようにたとえ英語が好きでも、楽しい授業づくりと直結するものではないという記述があった。

⑦ 私自身、英語が好きではあるが、児童に“英語が楽しい”と思ってもらえるような授業作りをする自信がないから。

⑧ 自分が英語が苦手なので、児童に分かりやすく教えられるか不安だから。

その他、【自分が英語を楽しいと思わない】という記述が2件みられた。⑨は自分が英語を楽しいと思えなければ、指導に自信をもてないという意見である。

⑨ 自分が英語を使うことに対して、心から楽しいと思えたことがないから。

【問3】で4や5を選択したH群は19.5%と少ない。このH群が、【問4】で記述していた内容についてみていく。最も多かったのは【英語は得意、理解できる】といった記述で7件あった。⑩、⑪は小学校よりも高度な内容を学んでいることを根拠にしている。

⑩ 英語は得意だから。

⑪ コミュニケーションにしても文法にしても一通り習得しているから。

⑫ 小学校の英語よりも難しい内容のものを取り扱い、ある程度理解できるから。

次に塾などで【教えているから・教育経験があるから】が3件あった。

⑬ 中高と英文法はほぼできていると思うし、今も塾のバイトで英語教えているから。

その他、【英語が好きだから】、【これから勉強するから】という記述が各1件あった。⑮のように、過去にあまりこだわらず、前向きに明るく努力する意識も重視する必要がある。

⑭ 英語が好きだから。

⑮ これから、勉強していくからです。

3) 教科「外国語」の小学生への意義について

【問5】(教科「外国語」を学ぶことは小学生にとって重要だと思いますか)で1や2を選択

したL群は計13%と少なく、受講生は小学生が英語を学ぶ必要性を大体、理解していることがわかる。このL群が、【問6】（そう思う理由を述べてください）で記述した内容についてみていく。

【小学生に英語は必要ではないと思うから】といった記述が、全体の回答数である11件中10件もあった。①は英語は小学校で教えなくてよいという意見である。②は国語との関連で課題を述べているが、思考と言語の関係まで考えている。

- ① やりたい人だけ習い事でやればいい。
- ② 国語の方が思考の言語で小学生時代に大事だと思うので、伝達の言語の英語に貴重な時間を費やしてほしくないから。
- ③ 今までの外国語活動で十分ではないかとも思う。

【問5】で4や5を選択したH群は70.3%と多い。このH群が、【問6】で記述した内容についてみていく。

最も多かったのは【グローバル社会だから】というもので、20件の記述がみられた。④のように就職での必要性や、⑥のように外国人労働者の増加という、具体的な指摘もあった。

- ④ 現在はグローバル化が進んでおり、将来就職する際に必要となる機会が多くなってきていると感じているから。
- ⑤ グローバル化してきている中でいろんな方としゃべれる能力は必須。
- ⑥ グローバル化が進んで今の小学生が社会人になったとき今日以上に外国人労働者が増えると考えているから。

次に、多かったのは【早く学ぶ方がいいから】といった記述で、11件あった。早期教育としてのメリットを⑧のように英語の発音や、⑨のように外国人と話すことに早く慣れる、といった点であげている記述があった。

- ⑦ 幼いころから学んだ方がのみこみが早いから。
- ⑧ 小さい時から触れておくことで英語への警戒心も薄れると思うし発音の習得もしやすいと思うから。
- ⑨ 外国の人と話すことに小さいころから慣れておくのはすごく大切だと思うから。

その他に、【中高で学ぶためにも先に学んでおくのがいい】という記述が9件あり、⑪、⑫のように、中高の予備的な段階として必要という意見が見られた。

- ⑩ 幼いころから英語にふれていた方が、中・高で学びやすいと思うから。
- ⑪ 小学生のうちに英語に触れておくのと、その後中学校や高校で本格的な勉強が始まった時に割とスムーズに学習できると思うから。

⑫ これからの社会では外国語を話すことができるというのが大きなアドバンテージになるので中学・高校・大学に向けての準備段階として、必要だと思う。

【英語が必要とされる時代だから】といった記述も6件あった。

⑬ 現在、就職の際など英語力が必要とされる場面が多くあるから。

⑭ 今もともと、英語は必要とされているから。

その他に、【文化理解】についての記述も1件みられた。⑮は英語学習による文化理解の可能性を指摘している。

⑮ 英語を勉強する中で日本との違いを見つけ、その違いが日本の良いことだったりするから。

【留意すべき点】についての指摘も1件あった。⑯は英語を使う「勇気」を育てることを主張している。この指摘は道徳的な面も含んでいて興味深い。

⑯ 社会で生きる上で英語は必要だと思うが、中学生から英語を勉強してきた私自身、英語を使うことはできるので、中学生からでも遅くないのではないか。それよりも、英語を使う「勇気」を小学生で培うことができる授業をすべきであると考えます。

4) 英語力の向上について

【問7】(あなたは、小学校教師になった際に、教科「外国語」を教えることができるように、日ごろから意識して英語力の向上につとめていますか)で1や2を選択したL群は39%であった。このL群が【問8】(英語力やその指導力の向上のために、現在、どのような場でどのような学習や活動をしていますか)で記述していた内容についてみていく。

まず、【週2回の大学の講義のみ】という記述が10件あった。②は講義の際の自分の学習活動を具体的に述べている。

① 週2時間の英語の授業のみ。

② 英語の授業を受けている。単語を辞書で引いて、日本語に訳する。

次に【講義以外に学習している】といった記述が5件あった。これはL群とはいえ、貴重な情報であり、注目すべきと思われる。③の体験は、小学校英語に活かせると思える。⑤も教えることは学ぶことであるという、教育の原理を体現している。

③ 外国人の友達と英語でやりとりをしている。

④ 教師になったときのことは考えていないが、普段の英語の授業を初め、ニュースを英語で読んだり、TOEICのテストを受けたり、などしている。

⑤ 塾のバイトで英語を教える。

さらに、【していない】といった記述が4件あった。この記述はすべて2年生であるので、週2回の必修英語は受講している筈であるが、そのことを特に英語力や指導力の向上につながる

ものとは意識していないようである。

⑥ 特にしていない。

⑦ なし。

その他に、【勉強できる機会を知りたい】といった記述があった。⑧は学びの機会・場を紹介することが必要であることを示唆している。特に今、小学校外国語が世間で大きな話題になっているので、いい機会だと思える。

⑧ そのような機会があるなら教えて頂きたいです。

【問7】で4や5を選択したH群は計23.3%であった。このH群が【問8】で記述していた内容についてみてみたい。

【講義以外に学習している】といった記述が9件あった。これらの内容は今後の小学校英語教育を考える上で貴重な情報なので、特に5例あげておく。⑨や⑩のように留学準備や短い海外旅行でも、重要な学習の契機となるようである。⑬のようにNHKの語学番組を聞くことも英語の基本的な文法の復習や発音などを学ぶことができると考えられる。⑮も生きた英語を学ぶ機会について述べている。

⑨ 留学参加予定。塾で英語を教える時もある。

⑩ 大学生になった年の5月から英会話に通っている。海外に行ったことがないのはだめだと思い、カナダに4泊6日で旅行に行った。言セ（*筆者注 言語センターのこと）で映画をよく見たり、NHKの語学番組を録画して見たりしている。

⑪ 授業や家でのTOEIC対策。

⑫ 英語の授業以外にも、単語帳で英単語を復習したり、CDを使ってディクテーションを行っている。

⑬ NHKの英語講座を見ています。英語力をつける為にTOEICを勉強しています。

次に【英語を教えたり、使ったりしている】というのが4件あった。

⑭ バイトの塾で英語を教えている。

⑮ バイト（接客業）で積極的に英語を使うようにしている（外国の方の時）。

その他に、【大学での講義】で学んでいるといった記述が2件あった。

⑯ 大学での講義。

5) やってみたい外国語教育について

【問9】（あなたは小学生に、どのように「外国語」を教えたいと思いますか、今、自分が思っていることでいいので、自由に述べて下さい）では、【楽しく学べるように教えたい】といった

記述が非常に多く、36件あった。

①は苦手意識を持つと後々、引きずるとして、楽しく教えることが大切だと述べている。③も苦手意識を持たせないためにゲーム感覚で教えると述べている。⑤は他教科との連携について言及しているが、これはカリキュラムマネジメントにも通じる貴重な意見である。⑦は文法は中学からでよく、好きになるように気軽に教えたいと小中の役割に言及している。

- ① 小学校の時から苦手意識をもつとずっと引きずるので、まず楽しんでもらえるような授業にしたい。でも具体的な方法はまだ思いつきません。
- ② まずは英語は楽しいということを伝えたい。そして文法も大切だが、たくさん話して、英語で思いを伝えられるように実践的な授業をしたい。
- ③ ゲーム感覚で楽しんで学べるようにしたい。苦手意識をつくらせないように。
- ④ 中学のための英語というよりも、外国の人とコミュニケーションがとれることの楽しさを教えたい。
- ⑤ 英語への苦手意識を植えつけてしまっただけでは意味がないので、英語が「楽しい」と思えるように、他教科と連携していきたい。例えば音楽を活用した英語や、体育を英語で行ってみるなど。
- ⑥ やはり英語の楽しさを学んで欲しいのが一番。文法ばかり英語を教えるのはつまらないとよく言われるが、文法こそネイティブに追いつく近道だと考えるので、文法もしっかり教えながら、子ども達が好きになるような英語の授業を展開したい。
- ⑦ 堅苦しく文法とかを教えるのは中学生からでいいと思うので小学生のときはみんなで英会話したり、楽しく問題を解いていたり、英語が好きと思えるように気軽に英語を教えたいと思います。

次に、【日常生活で使う英語を重視する】といった記述が7件あった。⑧は日常生活で使う内容を教えると述べている。⑨はラジオ英会話は日常場面での英語使用と異なるので取り入れないと、ある意味、厳密な指導を主張している。

- ⑧ 英会話で、日常生活で使う内容を教えることで、普段の生活との結び付きを大切にしたい。
- ⑨ 日常生活と関連させて学ばせます。その際、ラジオで英語の音声を聴く活動をしないようにします。その時の場面、感情などにより声の大きさは変わってくるので日常の生活と関連させます。
- ⑩ スピーキング、リスニング、ライティング、リーディングなどすべての授業を身につけることができるような授業。基本的な日常会話ができるような授業。

また、【話す、speaking 能力を重視する】といった記述が7件あった。⑬は正しい文法というよりも、様々な手立てでとにかく会話することを主張している。

⑪ speaking能力を高めたい。私は読むのは得意だが、ぜんぜんしゃべれないため、道案内を求められても全然話せないから。

⑫ 日本の英語学習は文法で学ぶことが多いので、海外に出た時に話せるように speaking を重視した授業にしたいと思う。

⑬ 単語、ボディランゲージでもいいので、クラス全員で会話ができるような授業。

【コミュニケーションを重視する】といった記述は5件あった。⑭は自分たちが中学で学んだ文法の意義も理解しつつ、コミュニケーションツールとして英語を学ばせたいというものである。

⑭ 実際に自分たちが中学校から学習してきたような文法的な英語も大事だと思うけど、小学校のうちに話す英語やコミュニケーションツールのひとつとしての英語を身につけさせたい。そこで楽しさを感じられるように教えたい。

⑮ 受け身の授業ではなく、コミュニケーションをとったりするアクティブな英語を教えたいと思う。

⑯ 英語を使って楽しくコミュニケーションを取る。

【外国の人との交流・ネイティブの指導を取り入れる】といった記述が3件あった。⑰はネイティブの発音を活用するというものである。

⑰ 小学校では単語などを覚えるためだけでなく、外国の先生と会話をする機会を多くもうけたいと思います。

⑱ ネイティブの教師を呼んでネイティブの発音で教えたい。

【歌やリズムを重視する】といった記述が3件あった。⑳は英語のリズムや音そのものを楽しむというものである。

⑲ 有名な歌や発音しやすい単語が多い歌を用いて全員で楽しみながら教えていきたい。

㉑ 発音を気にすることは忘れて、まず日本語にないリズムや音を楽しめるように教えたいと思う。

その他、各1件であるが、注目すべきものとして、【基礎を重視する】、【登場人物の気持ちを読解する】、【文化を伝える】といった記述があった。㉒は高度なレベルかも知れないが、先々、英語教育で目指す方向としては重要である。このレベルにいけば英語も子どもにとっても伝達の言語としてだけでなく、思考の言語になったといえよう。

㉑ 土台をくりかえして作っていく。超土台固め。

㉒ 日本語と同じように、文法だけでなく英文にかかれた人の思いや感情を子どもたちが感じられるような授業をしたい。

㉓ 欧米の文化も伝えながら教えることが英語への心理的ハードルを低くしたいです。

*【問10】（その他に、「外国語」に関して今、思っていることを自由に述べて下さい）の記述は多岐に亘って様々な考え・意見が出ていたので、今回、検討から除外した。

4. まとめ

本調査から、現在、教科「外国語」の内容や方法が小学校教師を目指す学生にあまり認識されていないことや、英語に対する学生の苦手意識や英語指導に対する様々な不安について把握することができた。また、小学校における外国語教育の必要性は認識しているものの、実際、指導に向けた英語力向上のための自身の学習についてはなかなか取り組めていないことがわかった。その一方で英語力向上に努力している学生からは多様な場や機会を生かしているという回答が得られた。さらに、子どもに苦手意識を持たせないように、「楽しい」授業づくりを志向する学生が多いこともわかった。ただ、楽しいことは重要だが、単に楽なこと（安易なこと）をするというのではなく、粘り強く取り組んだり、少し困難に挑戦したりする楽しさなど、楽しさの内実についてよく考えていくことも必要であろう。

今後、調査結果で明らかになった学生の実態やニーズ、志向性などを踏まえて、将来、小学校教員として自信を持って「外国語」を指導するために必要な英語力及び指導力を育成できるよう、体系的、関連的に学べるようなカリキュラムや、授業外での学生の多様な学びをより促進していく方策について考える必要がある。

小学校の教科「外国語（英語）」に関するアンケート調査（お願い）

本調査は無記名で、回答をお願いします。アンケート提出は任意ですが、これからの望ましい小学校英語および、そのための指導力育成のあり方を考えるためにご協力をお願いします。なお、アンケート結果の一部を教職論集の資料としてまとめる予定です。以上のことをご理解の上、よろしくご協力の程、お願いします。なお、学年については次のいずれかに○印をつけてください。

20期（ ） 19期（ ） 18期および18期以前（ ）

* 以下の選択の質問には12345のいずれかに○をつけてください。

1 全くそう思わない ←→ 5 全くそう思う

【問1】2020年度から小学校において、教科「外国語（英語）」（5・6年生）が実施されますが、その内容や指導方法についてあなたはよく知っていますか。

1 2 3 4 5

【問2】 小学校の教科「英語」について、知っていることがあったら述べてください。

【問3】 あなたが、もし小学校の高学年担任の教師になったら、教科「外国語（英語）」を十分、教えることができますか。

1 2 3 4 5

【問4】 そう思う理由を述べてください。

【問5】 教科「外国語（英語）」を学ぶことは小学生にとって重要だと思いますか。

1 2 3 4 5

【問6】 そう思う理由を述べてください。

【問7】 あなたは、小学校教師になった際に、教科「外国語（英語）」を教えることができるように、日ごろから意識して英語力の向上につとめていますか。

1 2 3 4 5

【問8】 英語力やその指導力の向上のために、現在、どのような場（機会）でどのような学習や活動をしていますか。具体的に述べてください。

【問9】 あなたは小学生に、どのように「外国語（英語）」を教えたいと思いますか、今、自分が思っていることでいいので、自由に述べて下さい。

【問10】 その他に、「外国語（英語）」に関して今、思っていることを自由に述べて下さい。

西南学院大学人間科学部児童教育学科